

親鸞さまの

【本文】

弥陀の尊号となへつつ

信 樂まことにうるひとは

憶念の心つねにして

仏恩報ずるおもひあり

【意識】

南無阿弥陀仏を称え続ける日々を送り、

真実の信心(阿弥陀様を抛り所とする心)を仏様から頂く人は、

阿弥陀様を想う心、救われる喜びが継続して、

その御恩を大切にする心を持ち続けるのです。

【私の味わい】

長い年月を経ても生き続ける言葉がある、とこの頃実感します。

最近、高校生の娘と運動する機会がありました。一緒に走ると、元気が有り余っている娘の後姿がある一方、私はとろとろといつの間にか遅れがちになっていました。若い体力との違いを思い知らされたことです。

丁度娘と同じ頃、私は剣道部所属でした。部活の顧問の先生が二人居られ、お一人は壮年で筋骨隆々の先生。もうお一人は戦前から剣道に打ち込まれてきた齢八十を越えておられる師範でした。その老先生が、体力のある高校生の相手をする事自体、今となつては驚きで、その佇まいにも道を極められた人の凄みを感じました。

一方、壮年の先生は、徹底的に生徒を鍛え上げる方針の方でした。私は、余りにも稽古が厳しいので、恥ずかしながら段々と避けるようになりました。ある時、先生から直々に呼ばれて、案の定徹底的に絞られました。立っているのもやつとになった時、先生はこう言われたのです。「しんどい時が伸びる時だ」と。その時、私は心の底から力が湧いてきました。先生の私の成長を思われる心を感じたから、だと思えます。

南無阿弥陀仏とは、阿弥陀様が私たちを思われる心です。必ず極楽へ連れ往く、私を心の抛り所とせよ、と。そのお心は、お言葉は、古今東西多くの人に届きます。

本物の言葉は、いつも人の、そして私の心を捉えて捨てないのだと思います。(悠水)